



HIROSHIMA UNIVERSITY

# Financial Report 2019

Hiroshima University

## 財務報告書 2019



## 目 次

- P2 広島大学のビジョン, ガバナンス
- P3 決算概要 貸借対照表 (要約)
- P5 決算概要 損益計算書 (要約)
- P7 外部資金受入額の推移
- P8 大学病院
- P9 広島大学基金
- P10 トピックス
- P12 財務比率
- P15 国立大学法人会計の仕組み

## 決算概況

2018年度は第3期中期目標期間の3年目、2004年4月の法人化後15回目の決算となりました。

運営状況を表す損益計算書においては、最終的に29.4億円の利益を計上しています。ただし、これは、企業における経済活動の結果生じたいわゆる利益ではなく、収益として計上した収入と費用の「差額」です。

2018年度は、教育・研究において効率的な予算執行に努めたこと、及び、大学病院における経営努力の結果、病院収益が伸びたことが要因となり発生したものです。

また、財産の状況を表す貸借対照表においては、例年と比較し大きな状況変化はありません。

資産の部において、大部分を占める土地と建物の多くは、2004年度に国から現物で出資を受けた資産です。

このうち、減価償却処理の対象である建物については、一般的な減価償却の処理によることなく、毎年、減価償却費相当額を純資産の資本剰余金を直接減額する処理を行うこととなっており、2004年度以降の減価償却累計額がマイナスで積みあがっています。

## SPLENDOR PLAN 2017（広島大学新長期ビジョン）

広島大学は、建学の精神「自由で平和な一つの大学」に則り、教育、研究、医療及び社会貢献の活動を通じて、多様性を育み自由で平和な国際社会の構築に貢献しています。新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN 2017」は、様々な諸情勢の変化を謙虚にかつ客観的に俯瞰し、「100年後にも世界で光り輝く広島大学」であるための今後10年間のプランと、その責務を果たすことを表明するものです。

**ミッション** 新しい平和科学の理念＝「持続可能な発展を導く科学」を確立し、多様性をはぐくむ自由で平和な国際社会の実現

**全体コンセプト** 「持続可能な発展を導く科学」を実践する世界的な教育研究拠点の構築

**到達目標** 徹底した「大学改革」と「国際化」を推進し、2023年度までに「持続可能な発展を導く科学」を実践する知の拠点として世界大学ランキングトップ100に入る総合大学

**研究** 「持続可能な発展を導く科学」を支える基盤研究と先端研究の高度化

**教育** 変動する世界を俯瞰し、国際的にチャレンジする人財の輩出

**社会貢献** 地域と国際社会が協同して発展する社会連携の強化

高度なIR機能に基づいて変革を進める大学

質の高い教員・研究者を養成する大学

教育と研究を高度化する連合大学

平和科学の新機軸を構築する大学

## 広島大学のガバナンス

### 運営組織

学長

役員会  
経営協議会  
教育研究評議会

人事委員会委員長

上席副学長  
(総合戦略担当)

学長補佐

学長特命補佐

総合戦略室

グローバル化推進室

基金室

監査室

監事

理事室

教育室

学術・社会連携室

医療政策室

国際室

財務・総務室

部局長室

地区運営支援部、  
部局支援室

### 教育研究組織

学部

大学院

専攻科

附置研究所

病院

図書館

教育本部

全国共同利用施設

中国・四国地区国立大学  
共同利用施設

学内共同教育研究施設

学内共同利用施設

附属学校

総合科学部  
文学部  
教育学部  
法学部  
経済学部  
理学部  
医学部  
歯学部  
薬学部  
工学部  
生物生産学部  
情報科学部

総合科学研究科  
文学研究科  
教育学研究科  
社会科学研究科  
理学研究科  
先端物質科学研究科  
工学研究科  
国際協力研究科  
統合生命科学研究科  
医系科学研究科  
法務研究科

（単位：億円）

| 科目         | 2018年度  |
|------------|---------|
| 資産の部       | 1,989.6 |
| 土地         | 968.1   |
| 建物         | 529.4   |
| 機械備品等      | 93.3    |
| 図書         | 140.3   |
| 建設仮勘定      | 1.9     |
| 現金・預金・有価証券 | 186.7   |
| 未収入金       | 64.3    |
| たな卸資産      | 5.6     |
| 合計         | 1,989.6 |

※端数処理の関係で表上の計算が一致しない場合があります。



東広島キャンパスの工学部講義棟の改修を行い、外観や内部の設備がリフレッシュされました。

## 貸借対照表 借方の概況

本学が保有する資産について、2019年3月31日現在の価値を種別ごとに整理しています。

このうち、土地と建物の多くは、2004年度の国立大学法人への移行時に国から承継した資産です。

機械設備等は、教育や研究、診療に使用する設備が整理されています。様々な設備があり、近隣の大学や研究機関等と共同で利用しているものもあります。

これら有形固定資産のうち、土地を除くものについては、時の経過とともに価値を減ずる処理（減価償却）を行うこととなっており、ここに示している金額については、その処理を行った後の額を表示しています。新たな資産の取得額が減価償却額を超えない場合には、毎年減少します。

図書についても教育や研究には必要不可欠な資産であり、図書館により整理管理されています。蔵書数は約35万冊です。

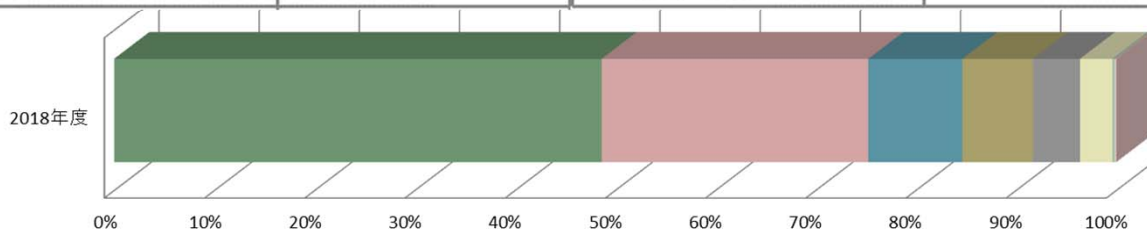
未収入金の多くは、病院収入のうち、期末時点で入金になっていない収入金であり、翌年度以降、順次入金されるものです。



教育や研究に使用する機械設備等の一例として、共焦点レーザー走査型顕微鏡などがあります。

## 資産内訳

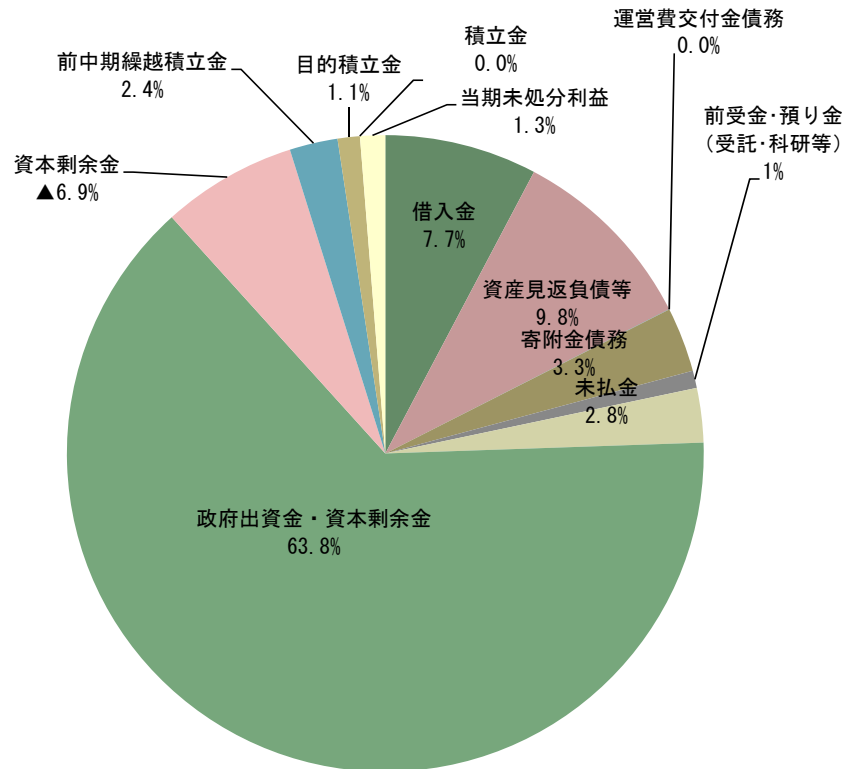
|              |       |         |      |
|--------------|-------|---------|------|
| ■ 土地         | 48.7% | ■ 機械備品等 | 4.7% |
| ■ 建物         | 26.6% | ■ 未収入金  | 3.2% |
| ■ 現金・預金・有価証券 | 9.4%  | ■ たな卸資産 | 0.3% |
| ■ 図書         | 7.0%  | ■ 建設仮勘定 | 0.1% |



（単位：億円）

| 科目              | 2018年度         |
|-----------------|----------------|
| <b>負債の部</b>     | <b>564.0</b>   |
| 借入金             | 178.4          |
| 資産見返負債等         | 225.5          |
| 運営費交付金債務        | 0.4            |
| 寄附金債務           | 75.8           |
| 前受金・預り金（受託・科研等） | 20.2           |
| 未払金             | 63.6           |
| <b>純資産の部</b>    | <b>1,425.6</b> |
| 政府出資金           | 1,472.2        |
| 資本剰余金           | ▲ 158.1        |
| 前中期繰越積立金        | 56.3           |
| 目的積立金           | 25.9           |
| 積立金             | 0.0            |
| 当期末処分利益         | 29.4           |
| <b>合計</b>       | <b>1,989.6</b> |

※端数処理の関係で表上の計算が一致しない場合があります。



## 貸借対照表 貸方の概況

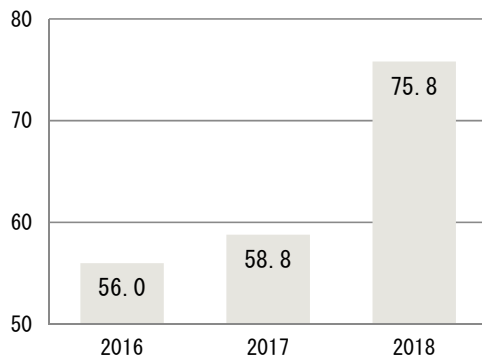
貸借対照表の貸方は、負債と純資産で構成されており、合計額は借方（資産）の合計額と一致しています。資産がどのような要素によって構成されているかが分かります。

資産の構成要素で最も大きなシェアを占めているのは政府出資金であり63.8%を占めています。土地や建物といった資産の多くは、国からの現物出資であり、純資産の政府出資金に整理されています。

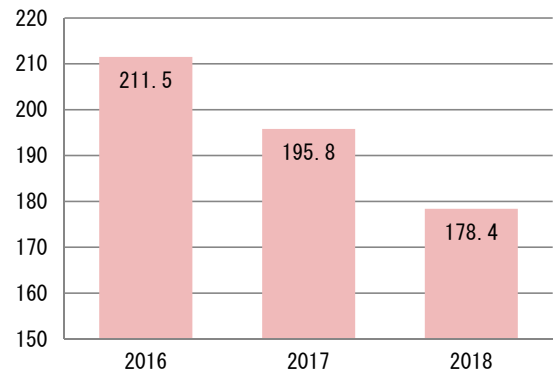
資本剰余金は、国から現物出資を受けた資産に係る減価償却費が累積していくためマイナスとなっています。

資産見返負債は、運営費交付金や授業料を財源として取得した資産に対応するものであり、毎年、減価償却費と同額を収益へ振替える処理を行うことによって損益を均衡させています。

（億円） 寄附金債務



（億円） 借入金



広島大学へご寄附いただいた寄附金は、収益ではなく負債へ整理することとなっています。

寄附金債務の額は寄附金の未使用残額であり、将来にわたり計画的に使用することが可能です。

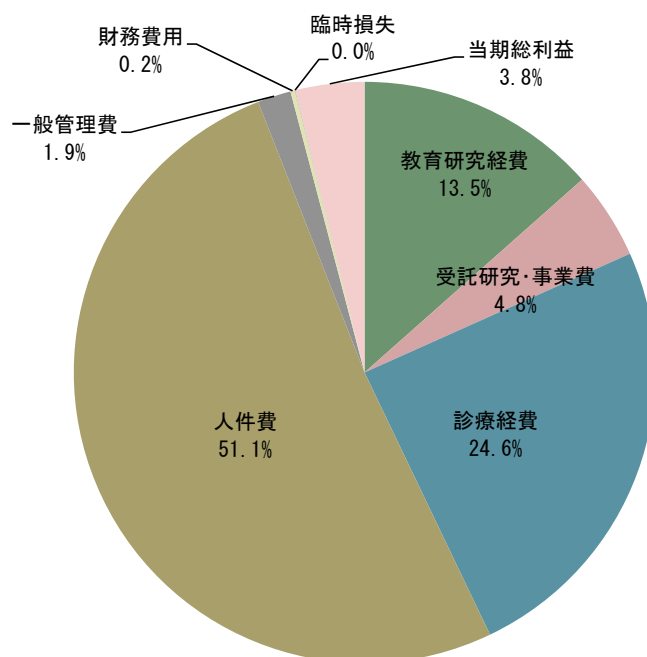
病院の施設整備を目的として、大学改革支援・学位授与機構から借入を行っています。

病院収入から償還しており、償還が進んだ結果残高は減少しています。

（単位：億円）

| 科目          | 2018年度       |
|-------------|--------------|
| <b>経常費用</b> | <b>739.8</b> |
| 教育研究経費      | 103.6        |
| 受託研究・事業費    | 37.3         |
| 診療経費        | 189.3        |
| 人件費         | 393.6        |
| 一般管理費       | 14.3         |
| 財務費用        | 1.9          |
| 臨時損失        | 0.3          |
| 当期総利益       | 29.4         |
| <b>合計</b>   | <b>769.5</b> |

※端数処理の関係で表上の計算が一致しない場合があります。



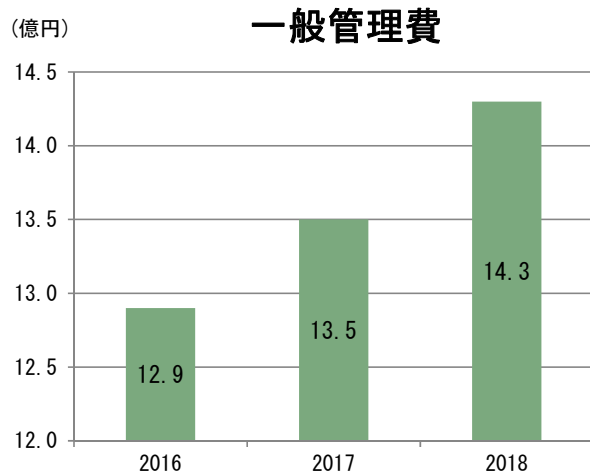
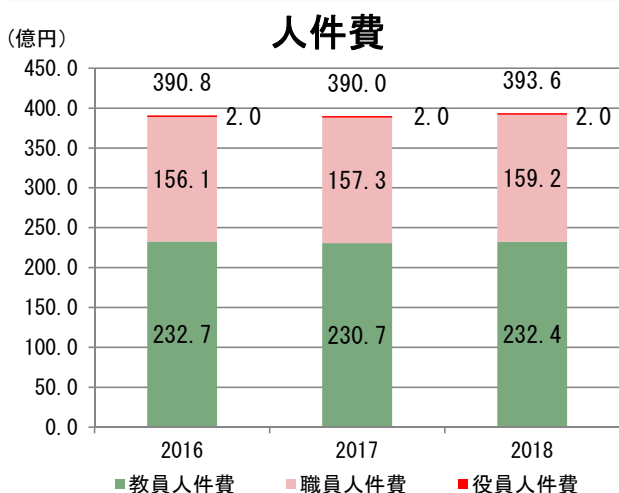
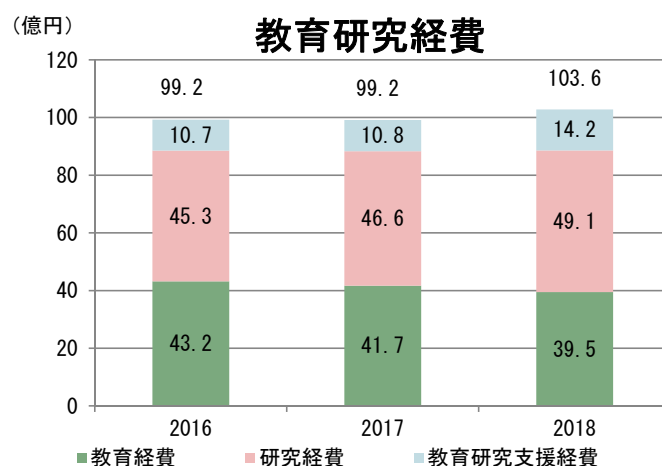
## 損益計算書 借方の概況

一般的には、「費用は収益を獲得するために費やしたもの」と解されますが、国立大学法人においては、収益の獲得が目的ではないことから、費用については、「収益の分配結果」と捉えることが適切です。

最も大きなシェアを占めているのは人件費ですが、教育・研究・診療といった事業活動を行うためには必要不可欠で重要な要素です。

教育研究経費や診療経費は、それぞれの活動に伴い費やした人件費以外の要素を計上しています。

財務費用は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構からの借入金に係る支払利息額を表しています。



人件費は費用の項目ではありますが、本学の活動の基盤を支える最も重要な財産です。

様々な取り組みにより、優秀な人材の確保に努めています。

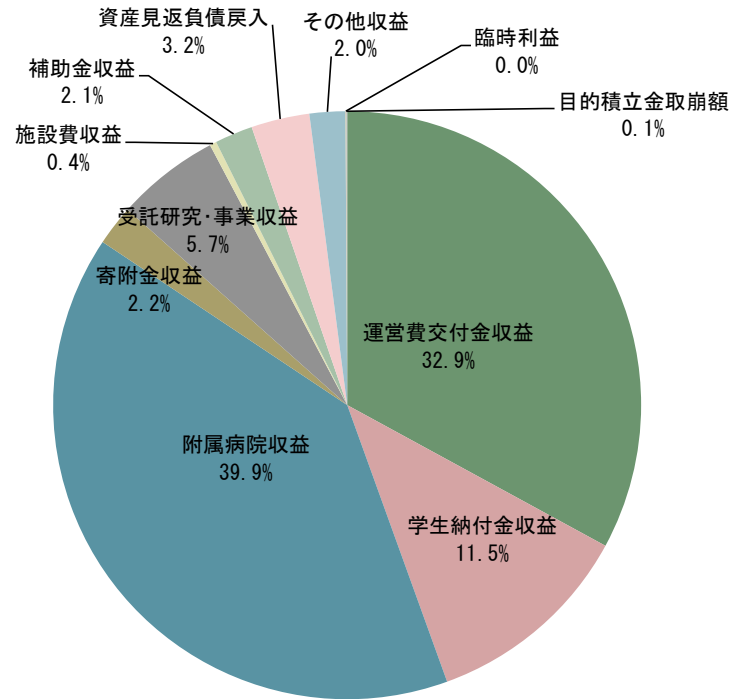
契約方法や仕様の見直しにより縮減努力を継続しています。

2018年度も全国的な人手不足の状況が影響し、対前年度増となっています。

（単位：億円）

| 科目          | 2018年度       |
|-------------|--------------|
| <b>経常収益</b> | <b>768.8</b> |
| 運営費交付金収益    | 253.4        |
| 学生納付金収益     | 88.8         |
| 附属病院収益      | 306.9        |
| 寄附金収益       | 17.0         |
| 受託研究・事業収益   | 43.9         |
| 施設費収益       | 2.8          |
| 補助金収益       | 16.1         |
| 資産見返負債戻入    | 24.7         |
| その他収益       | 15.1         |
| 臨時利益        | 0.3          |
| 目的積立金取崩額    | 0.4          |
| <b>合計</b>   | <b>769.5</b> |

※端数処理の関係で表上の計算が一致しない場合があります。



## 損益計算書 貸方の概況

民間企業とは異なり、国立大学法人においては、運営費交付金、授業料などの収入は、一旦負債に計上され、一定のルールに従って収益へ振替える取扱いとなっています。

運営費交付金や授業料を財源として資産を購入した場合は、対応する額が負債へ残ることとなり、結果、収入と収益には差が生じます。

このことから、民間企業と同様の観点から全体収益を論ずることはできません。

### 【経常収益】

附属病院収益の計上方法は民間企業とほぼ同様です。附属病院の経営努力により毎年増加しています。

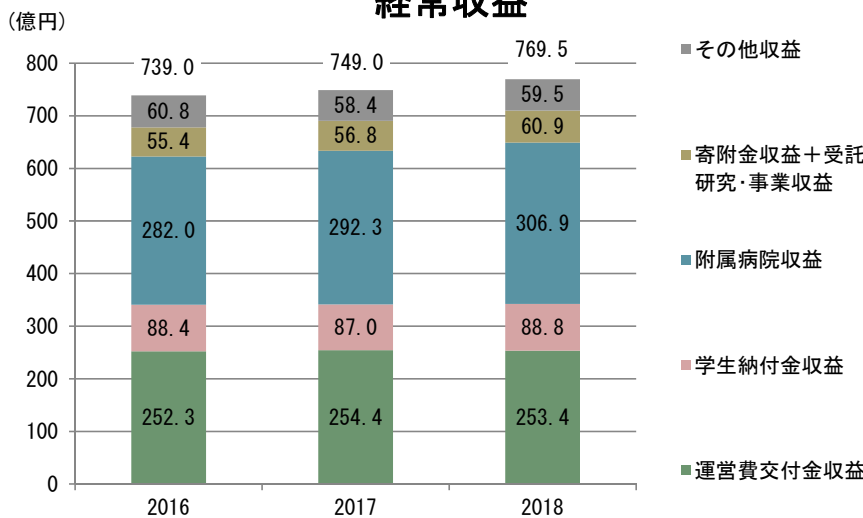
その他の収益と附属病院収益以外については、基本的に国立大学法人固有の会計処理が適用されています。

### 【外部資金収益】

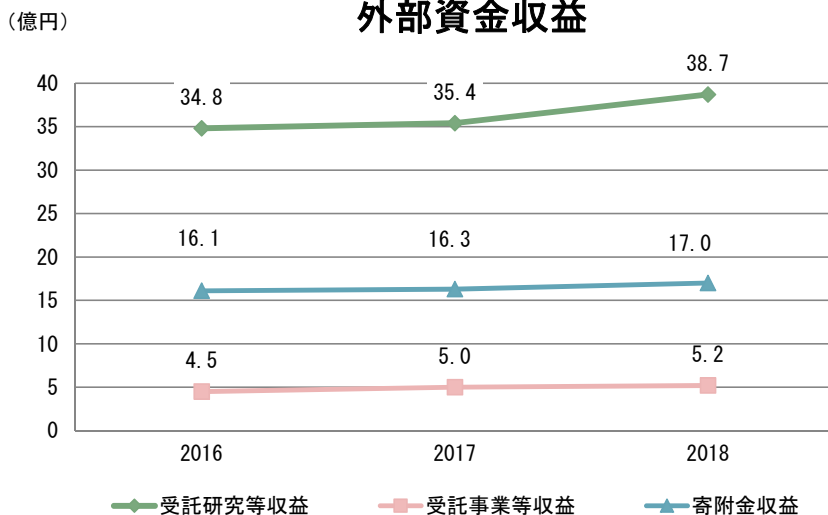
教育や研究、診療に関して特定の目的をもって受け入れる資金が外部資金です。

本学の教育・研究・診療業務を支える貴重な財源であり、増加のための取組みを一体となって継続しています。

## 経常収益

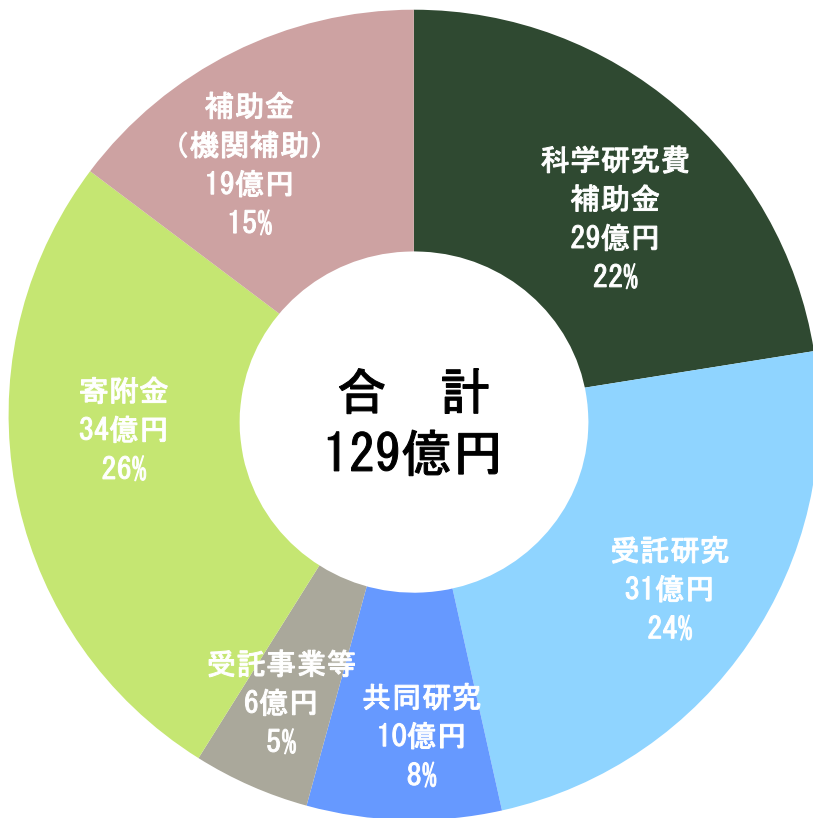


## 外部資金収益

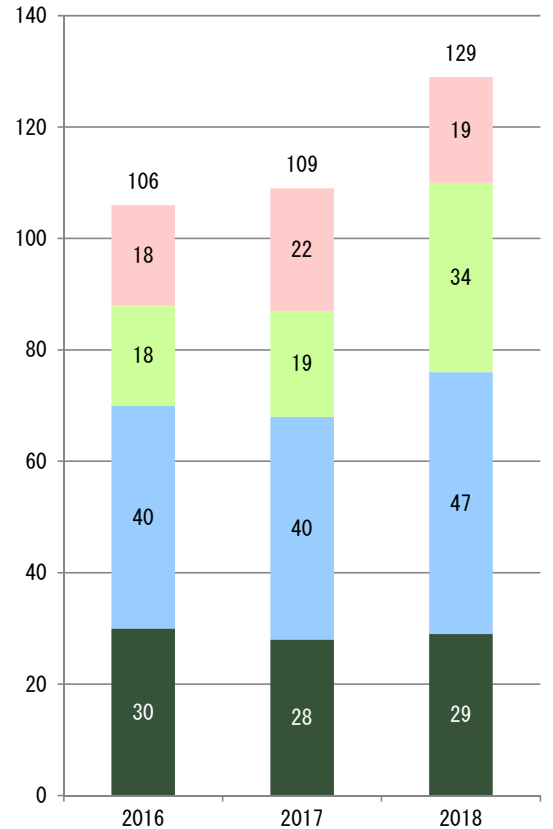


## 外部資金受入額の推移

2018年度 受入額



(億円)



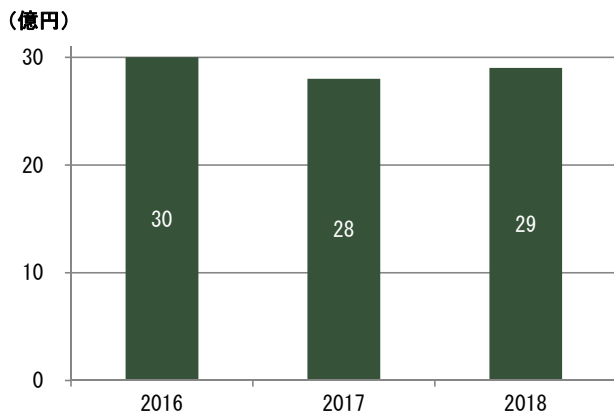
■ 科学研究費補助金

■ 受託・共同研究等

■ 寄附金

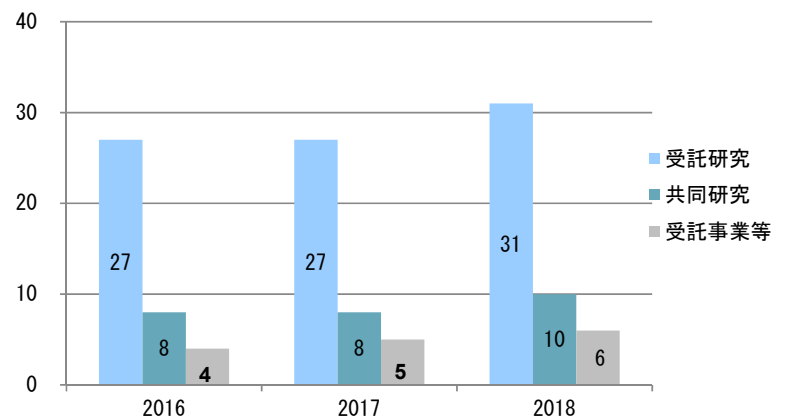
■ 補助金 (機関補助)

科学研究費補助金



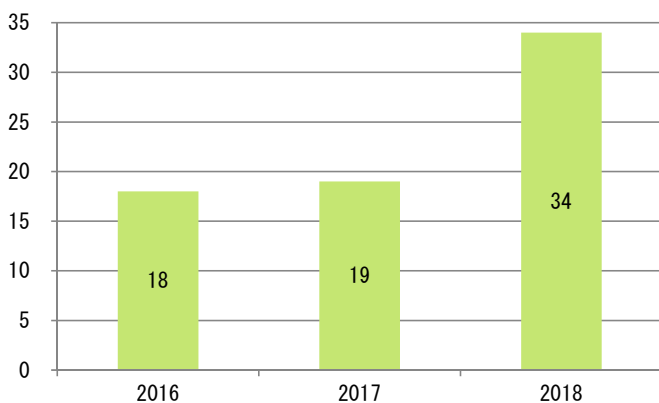
受託・共同研究等

(億円)



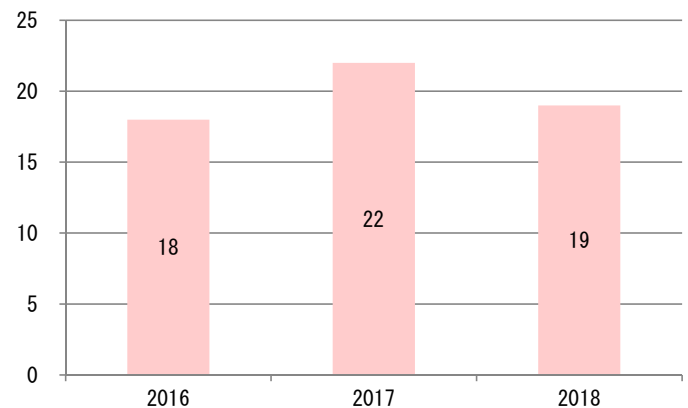
(億円)

寄附金



(億円)

補助金 (機関補助)

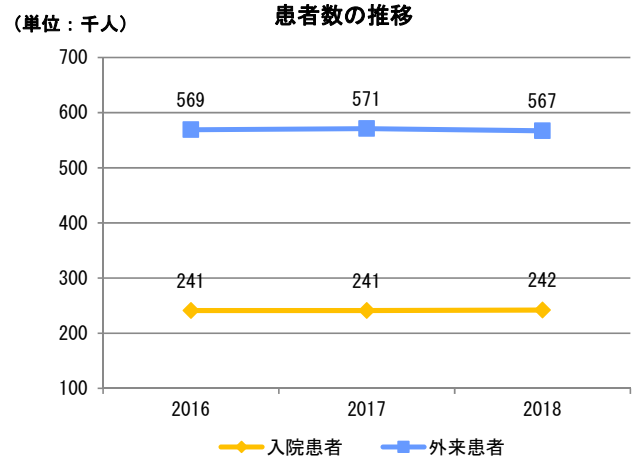
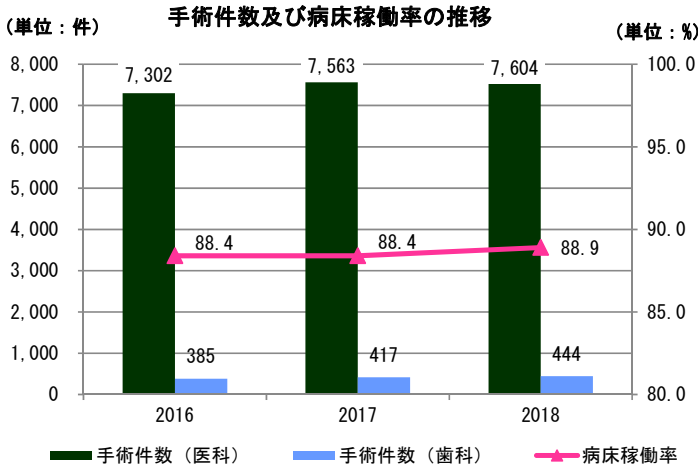
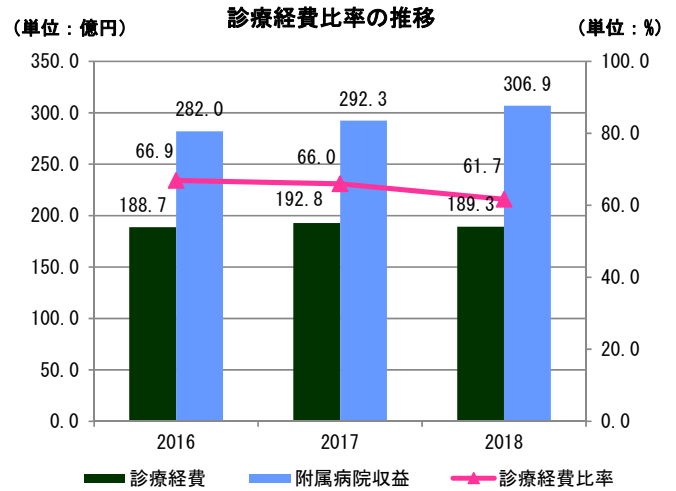
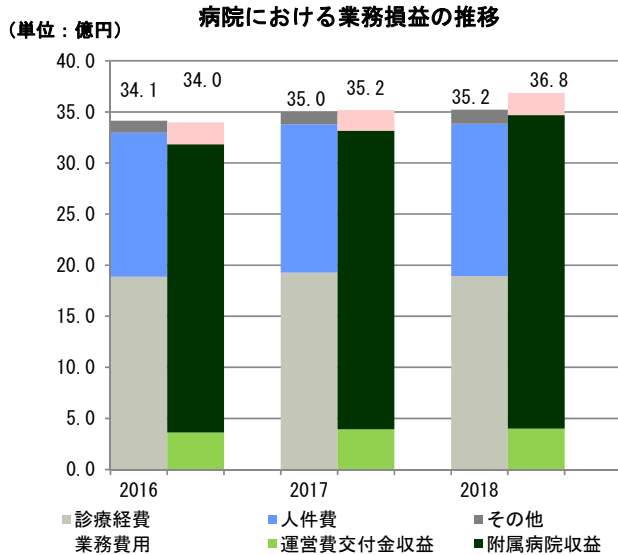




## 財務内容について

広島大学病院では、①全人的医療の実践、②優れた医療人の育成、③新しい医療の探求という理念を掲げており、医学・歯学・薬学・保健学の統合による新しい医療の開発と提供、よく理解できる安全な医療の提供、温かい心と倫理観を持つ医療人の育成、平和につながる国際的医学教育・研究の展開に努めることを基本方針としています。

2018事業年度の附属病院収入は306億円となり、前事業年度と比較すると17億円の増加となりました。広島県だけでなく中四国地方の拠点病院としてこれまで以上にその機能を十分に活かしていくためにも収入増、経費削減等の取組を推進し、経営基盤の強化、病院運営の効率化に努めていきます。



| 収益 (単位：億円) |       | 費用 (単位：億円) |       |
|------------|-------|------------|-------|
| 運営費交付金収益   | 39.9  | 教育経費       | 0.5   |
| 附属病院収益     | 306.9 | 研究経費       | 4.7   |
| 受託研究収益     | 4.6   | 診療経費       | 189.3 |
| 共同研究収益     | 0.2   | 受託研究費      | 3.4   |
| 受託事業等収益    | 0.6   | 共同研究費      | 0.2   |
| 補助金等収益     | 3.6   | 受託事業費      | 0.6   |
| 寄附金収益      | 4.5   | 人件費        | 149.0 |
| 施設費収益      | 0.0   | 一般管理費      | 2.0   |
| 財務収益       | 0.0   | 財務費用       | 1.8   |
| 雑益         | 1.6   | 雑損         | 0.6   |
| その他の収益     | 6.5   | 業務費用(計)    | 352.1 |
| 業務収益(計)    | 368.4 | 業務損益       | 16.3  |
| 計          | 368.4 | 計          | 368.4 |

## 取組について

### ○西日本豪雨災害医療支援活動

西日本各地に甚大な被害をもたらした2018年7月の西日本豪雨災害では、災害が発生した7月6日からDMAT（災害派遣医療チーム）が出動するなど、医師、看護師ら延べ260人が被災地で医療支援活動に取り組みました。



広島大学では、経済的な理由を抱える学力優秀者への修学支援や、外国人学生・日本人学生の留学支援などを目的に寄附金制度を設立し、各種事業を展開しています。法人・個人とも寄附金額に応じた税制上の優遇措置があります。また、一定額以上のご寄附をいただいた方のご厚意に対して、顕彰や記念品をご用意しています。

未来社会の構築に貢献できる優れた人材を輩出するため、皆様からのご寄付をお願いします。広島大学基金に係る詳細な情報は、本学のホームページをご覧ください。下記までお問い合わせください。

## ■広島大学基金HP

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/yakudou>

## ■お問い合わせ先

広島大学 基金室 TEL : 082-424-6132

## 広島大学基金の概要

広島大学基金は、フェニックス奨学事業をはじめとした学生支援や国際交流、研究支援など全学的事業の実施に活用させていただくために、平成19年度に創設された寄附金制度です。世界トップ100の総合研究大学を目指し、「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」を育成するために、各種事業を支援しています。

| 区分            | 平成30年度受入額      |
|---------------|----------------|
| 広島大学基金        | 175,381,769円   |
| 広島大学修学支援事業基金  | 40,255,659円    |
| サタケメモリアルホール基金 | 1,000,000,000円 |
| 冠事業基金         | 23,900,000円    |
| のぞみH基金        | 5,000,000円     |
| 合計            | 1,244,537,428円 |

### 学生支援事業

#### ●フェニックス奨学制度・光り輝く奨学制度

経済的理由で進学・修学が困難な学力優秀者に月額10万円を給付する、本学独自の奨学制度です。

### 研究支援事業

#### ●大学院学生のための国際学会発表支援

海外で行われる国際学会で発表する機会を増やすことにより、学生による研究活動を促進します。

### 国際交流事業

#### ●STARTプログラム・START+プログラム

海外経験の少ない学部1年次生を対象に、海外研修に参加する学生の渡航費や滞在費の一部を支援します。平成29年度より新たに学部2・3年次生を対象としたSTART+プログラムも開始されました。



#### ●世界展開力強化事業（インド）

日印両国に共通して重要性が高い「スマートインフラ整備」、「新エネルギー」、「環境持続性」の3分野及びその融合領域について、①地域の社会課題に即した革新技術を創生する起業家・技術者、②新たな革新技術を日印社会に適切に実装する政策立案者・研究者を養成するプログラムです。



## 建物等の寄贈について



### 『福山通運 小丸賑わいパビリオンの寄贈』

学生の起業活動や集会、自習など多目的に使用できる施設を、福山通運株式会社（小丸成洋代表取締役社長）からご寄贈いただきました。なお、施工については本学卒業生でもある山根恒弘様（ヤマネホールディングス株式会社取締役会長）にご尽力いただきました。飲食可能なフリースペースを設け、各ショップの出店を予定しています。（2019年10月末引渡し。）

## 大学院再編—新しい二つの研究科が2019年4月にスタート

2019年4月、大学院統合生命科学研究科と大学院医系科学研究科を新設しました。

統合生命科学研究科は、先端物質科学研究科、生物圏科学研究科、総合科学研究科、理学研究科の4研究科の7専攻（一部を含む）を再編し、1専攻7プログラムで構成します。本研究科では、発展・変革し続ける生物学・生命科学系の研究領域に迅速に適応し、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら、イノベーションの創出を目指します。

医系科学研究科は、既存の医歯薬保健学研究科を再編し、従来の5専攻を2専攻とします。医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進します。



統合生命科学研究科（左）と医系科学研究科（下）の看板除幕式の様子



## 世界に羽ばたく。教養の力 ～世界で活躍するリーダーに学ぶ～

広島大学は、全学部の新入生を対象として、スポーツ、芸術、科学、ビジネスなど世界で活躍されているリーダーをお招きし、ご自身の学生時代や、困難を乗り越えた経験などを語っていただく「世界に羽ばたく。教養の力」を、2017年度から実施しています。



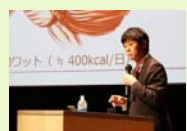
池田 晃治 氏  
(広島銀行 代表取締役会長)  
「情報過多の時代だが、本当にそうなのか?なぜ?なぜ?なぜ?と3回は疑問を持って自分の頭で考えて納得してから受け入れよう。」



中丸 三千繪 氏  
(オペラ歌手)  
「夢をかなえるためには努力をして、そして努力をした自分を信じて、自信をパワーに変えてがんばってください。」



茂木 健一郎 氏  
(脳科学者)  
「日本の若者の底力を信じている。性別や学歴は関係ない。大きな目標をもち、興味のあることをとことん追求・挑戦していく人材になってほしい。」



池谷 裕二 氏  
(東京大学 薬学部 教授)  
「好奇心を持って、いろいろ経験してほしい。将来どんな状況になっても順応できる柔軟性を磨こう。」



二宮 清純 氏  
(スポーツジャーナリスト)  
「Passion (情熱), Mission (使命), Action (行動) をもって、好きなことに挑戦してほしい。will (意志) がしっかりしていれば、失敗も困難も乗り越えれると信じている。」



モーリー・ロバートソン氏  
(国際ジャーナリスト)  
「しっかり勉強して、その人のリテラシー (能力) のレベルで分かるように『伝える』ことが皆さんの使命だと思います。」



越智 光夫 氏  
(広島大学長)  
「自分の頭でしっかり考え、チャレンジし続ける人生を。」



野村 謙二郎 氏  
(野球評論家、  
広島東洋カープ 前監督)  
「大学では人間関係を学び、様々な経験をしよう。」



矢野 博丈 氏  
(株式会社大創産業 会長)  
「しっかり勉強するとともに、心の通った友人を作って欲しい。人が喜ぶこと、役に立つことをして、自分を高めて欲しい。」



川淵 三郎 氏  
(日本サッカー協会 キャプテン (相談役)  
Jリーグ 初代チエスマン)  
「何か新しいことを始めるときには、W (ワークハード) だけではなく、何のためにするのかというV (ビジョン) を大切にしてほしい。」



弘兼 憲史 氏  
(漫画家)  
「社会を見つめる鋭い視点を持つためには、常に広く浅くいろんな知識を吸収しどんな話題にもついていけるようにすることが大切。」

※印象的な言葉を本学公式ウェブサイトから引用しました。

## 世界初「路面電車と協調する自動運転バス」公道実証実験を行いました

2019年11月17日、広島大学は、自動運転のバスを広島電鉄が運行する路面電車の軌道敷地内で走行させる世界初の実証実験を広島市内で行いました。

国土交通省の『質の高い交通時代のモビリティの価値の計測手法開発に関する研究』の一環で、広島地区ITS意見交換会と連携して実施しました。

自動運転バスは車間距離などを感知するセンサーやカメラを装着しており、実証実験で得られたデータやモニターアンケートを解析し、定時運行・利用者の乗り換えの利便性向上等を検討していきます。



電車の軌道敷地内に進入する自動運転バス

## 広島大学から世界へ～世界のトップ講師に聞く～

広島大学では、世界の最先端に行く研究者や各国政府代表者・大使の方々を講師としてお招きし、継続的に講演を開催しています。

### 広島大学知のフォーラム in Tokyo (2019年1月9日開催)



ポール・ナース博士 (英国フランス・クリック研究所長)

ノーベル賞受賞に至った研究内容について、手書きのイラストも交えた分かりやすく興味深いお話をご講演いただきました。

また、当日は、「ゲノム編集先端人材育成プログラム」の公開セミナーおよび生命科学・医療系分野で国際的に活躍する本学の先端研究者による講演も行われました。

### 第4回ピース・レクチャー・マラソン(2019年1月28日開催)



パトリシア・フロア氏 (駐日欧州連合特命全権大使)

#### 『EUが取り組む平和プロジェクト』

講演でフロア氏は、2012年のノーベル平和賞受賞にいたるまでの欧州連合(EU)の歴史をひもときながら振り返りました。続いて、安全保障上の脅威が国境を越えたものとなった今日において、EUが人権尊重と国際協定の原理のもと、域内外との協力によって平和構築に努めていることを、数々の事例によって説明いただきました。

### 第4回 広島大学知のフォーラム(2019年3月11日開催)



天野 浩 博士 (名古屋大学未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センター長・教授)

#### 『Transformative Electronicsが築く未来社会』

天野博士は、当時研究者の間で不可能と言われていた、窒素ガリウムを用いた青色発光ダイオードの作製に世界で初めて成功するまでに乗り越えた苦難の数々や、企業などと連携し、未来の「イノベーター」を育てるために取り組んでいる新たな人材育成について語りました。

### 大学院統合生命科学科・大学院医系科学研究科設置記念講演会(2019年7月20日開催)



本庶 佑 博士 (京都大学高等研究院副院長・特別教授)

#### 『獲得免疫の驚くべき幸運』

本庶氏は「獲得免疫によって、脊椎動物の寿命が飛躍的に延長し、さらに幸運なことにかん細胞も変異の蓄積で異物となり獲得免疫のターゲットとなる」とノーベル生理学・医学賞の受賞につながる分子免疫学研究の歩みについて説明しました。また、学生に対して「何が大切な課題であるか、何が一番知りたいかを自分で見つけることが大事である」とエールを送りました。

### 第5回ピース・レクチャー・マラソン(2019年10月4日開催)



土屋 定之 氏 (ペルー共和国駐在特命全権大使)

#### 『日系人が経験した戦争と平和 en el Perú』

講演で土屋氏は、1899年以来、契約農民として日本からペルーに計18000人余りが渡り、都市部に出てビジネスで成功した人もいましたが、第二次世界大戦が始まると個人資産が凍結されたり、米国の収容所に強制的に送られたりするなど、日系人の歩んだ苦難の歴史を振り返りました。

## 一企業の人事担当者が見る大学イメージランキング

# 広島大学が 「対人力」全国1位

日本経済新聞社と就職支援・転職支援の日経HRが実施した大学イメージ調査で、広島大学は「対人力」が全国1位となりました。また「行動力」でも全国3位の高い評価を受けました。

「行動力」「対人力」に「知力・学力」「独創力」を加えた総合ランキングでは、全国5位(中四国ではトップ)にランクされました。



総合ランキング

中四国

1位

(全国5位)

対人カランキング

全国

1位

『日経キャリアマガジン特別編集  
価値ある大学2020年版』(日経  
HR/2019年6月発行)より

国立大学法人の活動状況を把握するための参考情報の一つであり、財務の健全性・効率性及び活動性等の観点から分析を行ったものです。  
 なお、本項目におけるAグループとは、学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人を指します。広島大学はAグループです。

| 区分              | 大学  |
|-----------------|---|
| Aグループ<br>(13大学) | 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人（学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ）                                    |
|                 | <旧帝大><br>北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学<br><旧帝大以外><br>筑波大学、新潟大学、千葉大学、神戸大学、岡山大学、広島大学 |

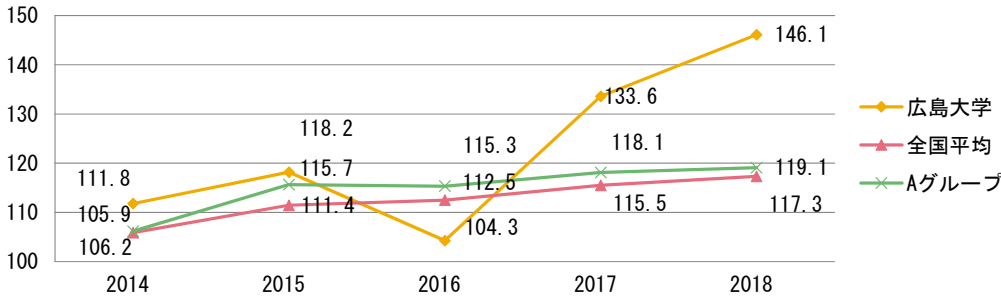
指標 △・・・高い値が良い  
 ▼・・・低い値が良い

評価 ↑・・・全国平均、Aグループより良い  
 ↓・・・全国平均、Aグループより悪い

| 分類         | 分析項目             | 算式  | 指標 | 評価 | 全国平均  | 評価 | Aグループ | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|------------|------------------|---|----|----|-------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 財務の健全性・安定性 | 流動比率             | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$                       | △  | ↑  | 117.3 | ↑  | 119.1 | 111.8  | 118.2  | 104.3  | 133.6  | 146.1  |
|            | 自己資本比率           | $\frac{\text{自己資本}}{\text{(負債+自己資本)}}$                  | △  | ↑  | 69.6  | ↑  | 69.8  | 68.4   | 69.5   | 70.5   | 71.0   | 71.7   |
|            | 附属病院収入対長期借入金返済比率 | $\frac{\text{長期借入金返済+大学改革支援・学位授与機構納付金}}{\text{附属病院収入}}$ | ▼  | ↑  | 6.0   | ↑  | 6.0   | 4.4    | 4.1    | 4.5    | 4.6    | 5.2    |

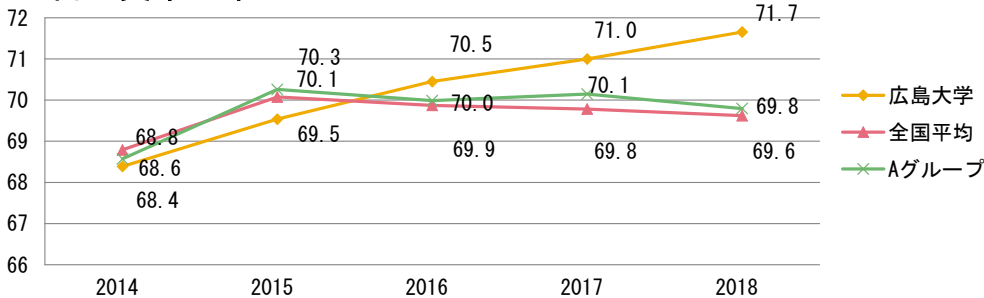
単位 (%)

## 流動比率



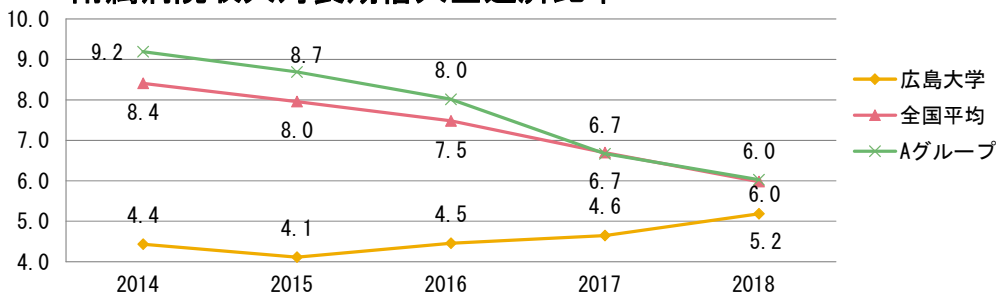
**【流動比率】**  
 一年以内に償還又は支払うべき債務（流動負債）に対して、一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度確保されているかを示します。

## 自己資本比率



**【自己資本比率】**  
 総資産に対する自己資本（純資産）の比率のことで、資本構成により健全性を判断する指標です。

## 附属病院収入対長期借入金返済比率

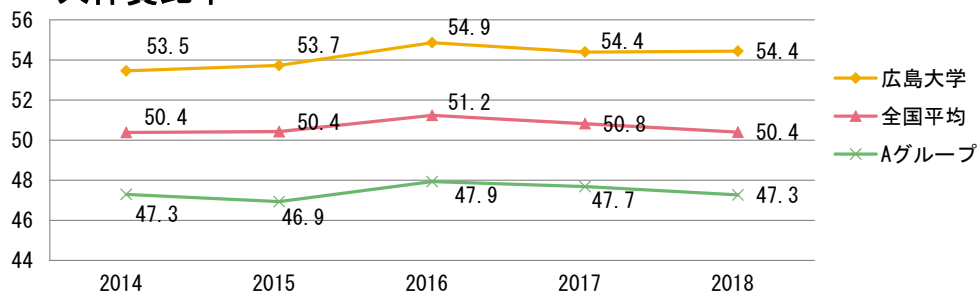


**【附属病院収入対長期借入金返済比率】**  
 附属病院収入に対する長期借入金返済の比率であり、当該国立大学附属病院の健全性を判断する一指標となります。

単位 (%)

| 分類  | 分析項目    | 算式    | 指標 | 評価 | 全国平均 | 評価 | Aグループ | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|-----|---------|-------|----|----|------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 効率性 | 人件費比率   | 人件費   | ▼  | ↓  | 50.4 | ↓  | 47.3  | 53.5   | 53.7   | 54.9   | 54.4   | 54.4   |
|     |         | 業務費   |    |    |      |    |       |        |        |        |        |        |
|     | 一般管理費比率 | 一般管理費 | ▼  | ↑  | 2.9  | ↑  | 2.8   | 2.4    | 2.0    | 1.8    | 1.9    | 2.0    |
|     |         | 業務費   |    |    |      |    |       |        |        |        |        |        |

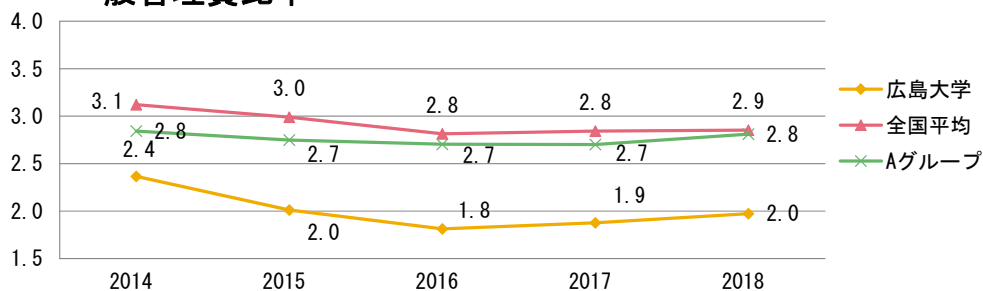
## 人件費比率



## 【人件費比率】

人件費が法人の業務費に占める割合を示す指標で、人件費抑制により効率的な資源運用がされているかを示すものです。比率が低いほど教育研究活動に対する財源が確保されていることを示し、より望ましいとされています。

## 一般管理費比率

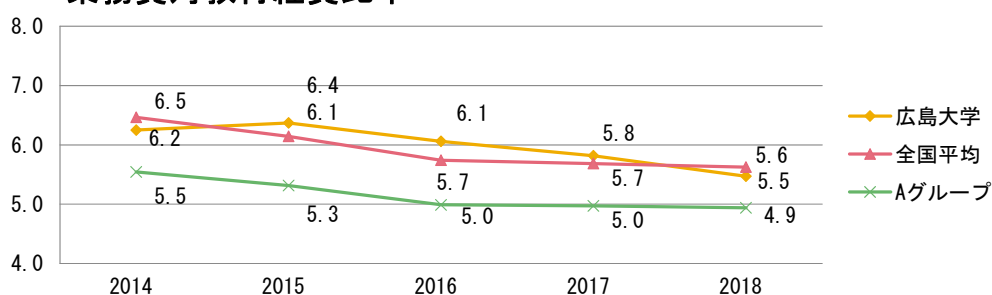


## 【一般管理費比率】

業務費に対する一般管理費の比率であり、国立大学法人等が管理運営を行う際の効率性及び管理運営等に要する財源が確保されているかを判断する一指標となります。

| 分類  | 分析項目       | 算式   | 指標 | 評価 | 全国平均 | 評価 | Aグループ | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|-----|------------|------|----|----|------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 活動性 | 業務費対教育経費比率 | 教育経費 | △  | ↓  | 5.6  | ↑  | 4.9   | 6.2    | 6.4    | 6.1    | 5.8    | 5.5    |
|     |            | 業務費  |    |    |      |    |       |        |        |        |        |        |
|     | 業務費対研究経費比率 | 研究経費 | △  | ↓  | 8.2  | ↓  | 11.2  | 8.6    | 7.9    | 6.4    | 6.5    | 6.8    |
|     |            | 業務費  |    |    |      |    |       |        |        |        |        |        |

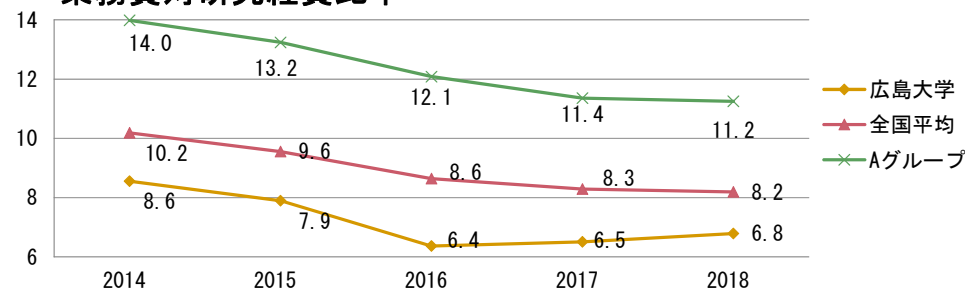
## 業務費対教育経費比率



## 【業務費対教育経費比率】

業務費に対する教育経費の比率であり、当該国立大学法人等における教育の比重を判断する一指標です。この比率が高いほど教育活動に使用される経費割合が高く、教育環境向上に対する高い姿勢を示しています。

## 業務費対研究経費比率



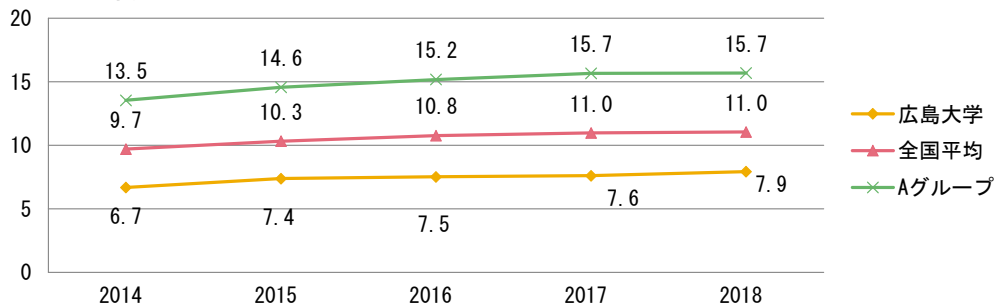
## 【業務費対研究経費比率】

業務費に対する研究経費の比率であり、当該国立大学法人等における研究の比重を判断する一指標です。この比率が高いほど研究活動に使用される経費割合が高く、研究環境向上の必要性と課題を示しています。

単位 (%)

| 分類  | 分析項目   | 算式   | 指標 | 評価 | 全国平均 | 評価 | Aグループ | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|-----|--------|--|----|----|------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 発展性 | 外部資金比率 | $\frac{\text{受託研究等収益} + \text{受託事業等収益} + \text{寄附金収益}}{\text{経常収益}}$ | △  | ↓  | 11.0 | ↓  | 15.7  | 6.7    | 7.4    | 7.5    | 7.6    | 7.9    |

## 外部資金比率

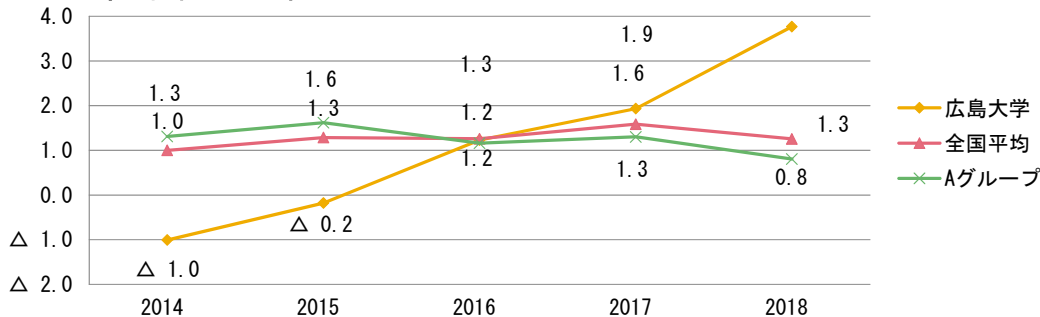


**【外部資金比率】**  
 経常収益に対する外部から獲得した資金の比率であり、当該国立大学法人等の外部資金等による活動の状況及び収益性を判断する一指標となります。

単位 (%)

| 分類  | 分析項目   | 算式                                | 指標 | 評価 | 全国平均 | 評価 | Aグループ | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|-----|--------|-----------------------------------|----|----|------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 収益性 | 経常利益比率 | $\frac{\text{経常利益}}{\text{経常収益}}$ | △  | ↑  | 1.3  | ↑  | 0.8   | △ 1.0  | △ 0.2  | 1.2    | 1.9    | 3.8    |

## 経常利益比率

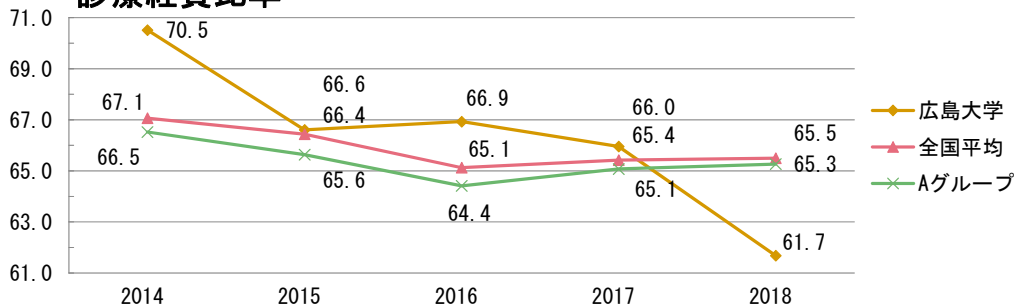


**【経常利益比率】**  
 経常収益に対する経常利益の比率であり、当該国立大学法人等の事業の収益性を判断する一指標となります。

単位 (%)

| 分類         | 分析項目   | 算式                                  | 指標 | 評価 | 全国平均 | 評価 | Aグループ | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|------------|--------|-------------------------------------|----|----|------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 収益性 (附属病院) | 診療経費比率 | $\frac{\text{診療経費}}{\text{附属病院収益}}$ | ▼  | ↑  | 65.5 | ↑  | 65.3  | 70.5   | 66.6   | 66.9   | 66.0   | 61.7   |

## 診療経費比率

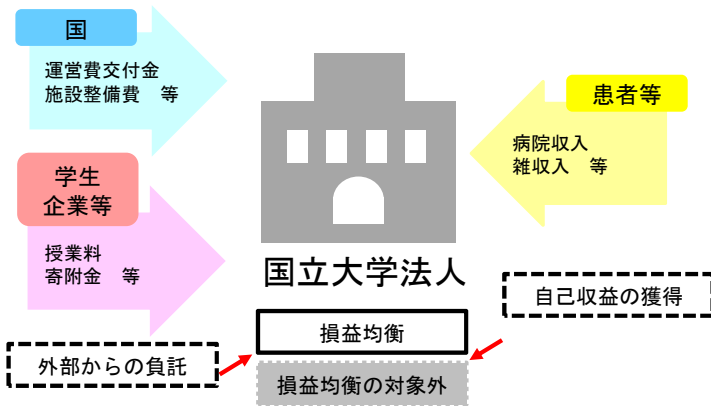


**【診療経費比率】**  
 附属病院収益に対する診療経費の比率であり、当該国立大学附属病院の収益性を判断する一指標となります。  
 ただし、診療経費には人件費は含まれていません。

国立大学法人の会計制度は、企業会計方式を基本としますが、国立大学の特殊性を考慮し、いくつかの点で、企業会計には見られない独特の会計処理を取り入れたものとなっています。

より多くの皆様に本学の財政状態や運営状況を知っていただくために、国立大学法人会計の特有なしくみについて、簡潔に説明いたします。

## I. 国立大学法人の収入



国立大学法人は、学生からの授業料等の納付金や病院収入等の自己収入、国からの運営費交付金等で運営されています。これらの収入は、収入源の性質に応じて会計処理が行われます。

## II. 国立大学法人と民間企業の違い

| 区分   | 活動の目的                  | 利益の獲得   |
|------|------------------------|---|
| 民間企業 | ステークホルダーの利益最大化、企業価値最大化 | 目的とする   |
| 国立大学 | 公的性格を有する教育・研究・診療等の実施   | 目的としない <span style="color: purple;">大学特有のしくみ</span> |

国立大学法人は、公共的な性格を有し、利益の獲得を目的とせず、独立採算性を前提としない等の独立行政法人の特性に加え、主たる業務内容が教育・研究・診療である等の特性があります。

そのため、通常の業務運営を行った場合、基本的には利益は生じず、損益が均衡するしくみとなっています。

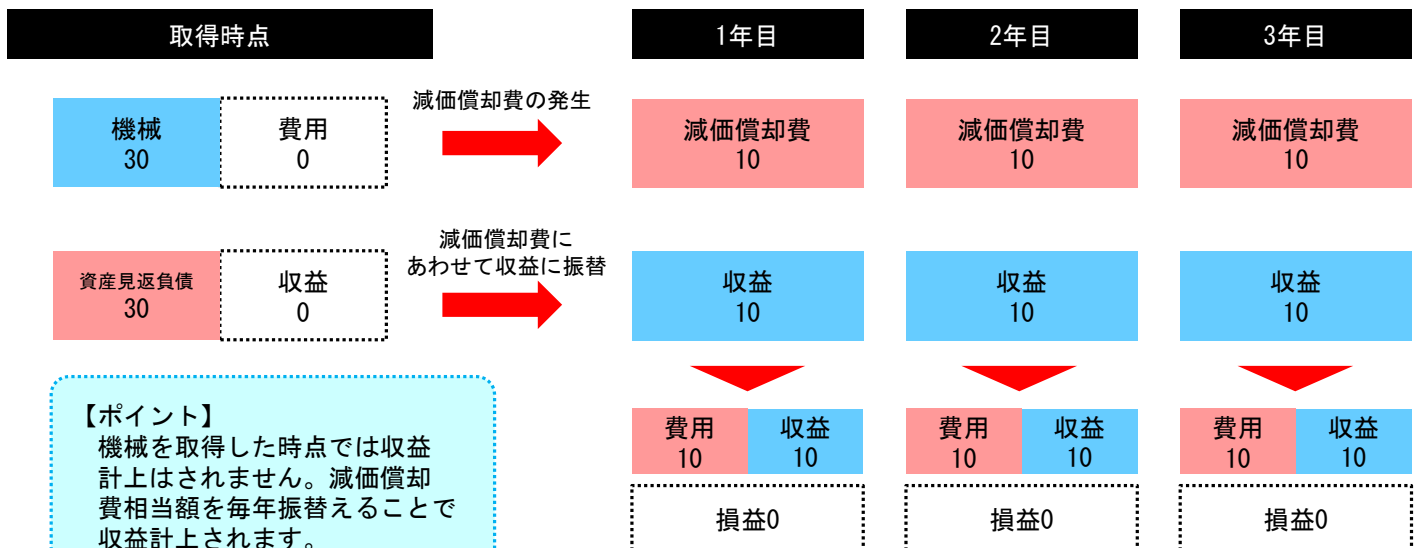
## III. 国立大学法人会計特有のしくみ

### ● 損益均衡を前提とした会計処理

運営費交付金や授業料を受領したときは、債務として負債に計上し、行うべき業務を実施すると、その相当額を収益化の基準に従って収益化する仕組みとなっています。

また、一般的に固定資産を運営費交付金などで取得した場合、取得原価相当額を資産見返負債として計上することで、収益計上を一旦留保します。その後、留保された金額から減価償却費相当額を毎年収益に振替えていきます。

このように、国立大学法人は、通常の業務を行えば損益均衡するように制度設計されています。



**【ポイント】**  
 機械を取得した時点では収益計上はされません。減価償却費相当額を毎年振替えることで収益計上されます。

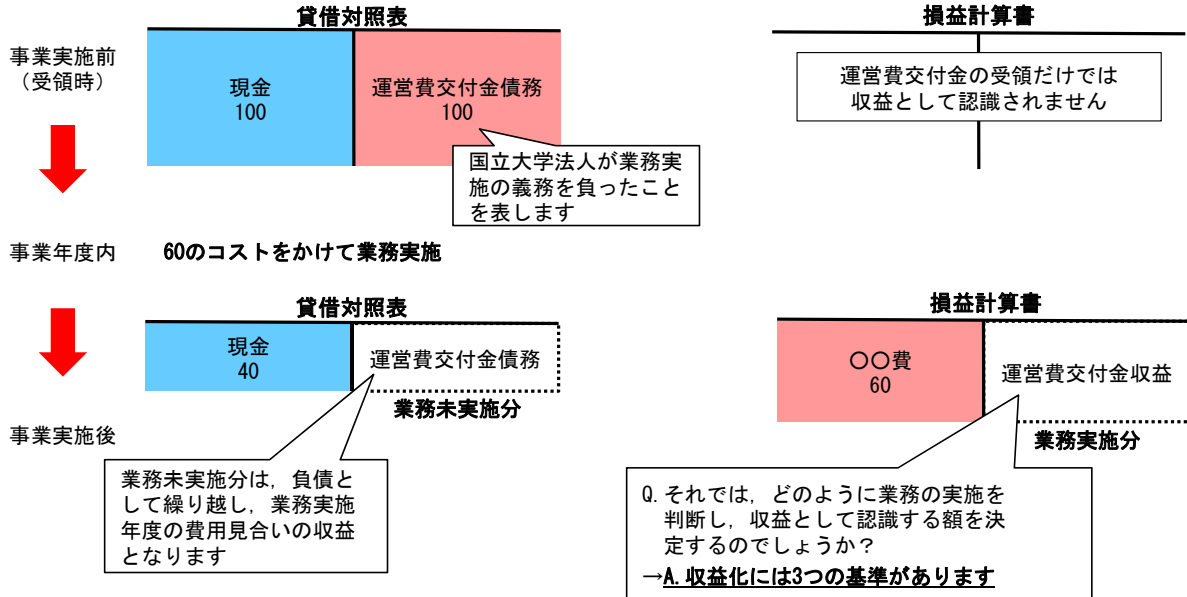


## IV. 収益の認識

### ●受領時に負債計上した後、収益を認識するもの（【例】運営費交付金、授業料、施設整備費等）

運営費交付金や授業料等は、外部から負託された財源を使用して教育研究等の業務が実施された後に収益を計上します。この負債の計上は、資金の受領により国立大学法人は当期における教育研究を行う義務を負うとの考え方によるもので、教育研究等の実施によりその義務が履行され、収益として認識されることとなります。

#### 収益化イメージ

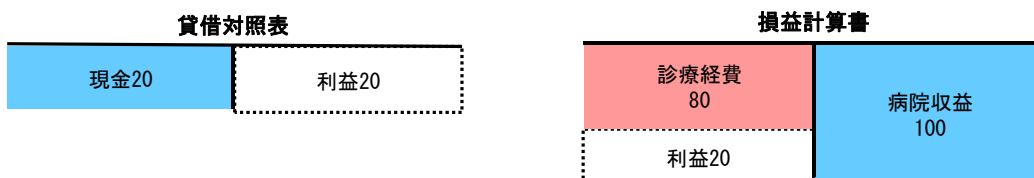


#### 収益化の基準

| 基準   | 収益認識の考え方  | 会計処理  |        |               |       |  |
|--|---|---|--------|---------------|-------|--|
| <b>期間進行基準</b><br><br>【対象財源】<br>運営費交付金（原則）<br>授業料                               | 時の経過に伴い業務が実施されたとみなし収益化します<br><br>運営費交付金や授業料により実施される教育研究業務は、その進捗度が測りがたいことから、一定の期間の経過を業務の進行とみなし、予定された年間の事業が行われたことをもって収益化します。                                    | <b>損益計算書</b><br><table border="1"> <tr> <td>〇〇費 50</td> <td>運営費交付金 収益 100</td> </tr> <tr> <td>利益 50</td> <td></td> </tr> </table> 費用を削減すれば利益が発生<br>計画通り100の費用で実施すれば損益均衡 | 〇〇費 50 | 運営費交付金 収益 100 | 利益 50 |  |
| 〇〇費 50   | 運営費交付金 収益 100   |   |        |               |       |  |
| 利益 50  |   |   |        |               |       |  |
| <b>業務達成基準</b><br><br>【対象財源】<br>運営費交付金<br>（プロジェクト事業等）                           | 業務の達成度に応じて収益化します<br><br>運営費交付金の収益化は期間進行基準が原則ですが、プロジェクト事業など、一定の業務と運営費交付金との対応が明らかで、達成度の測定が可能なものはこの基準により収益化されます。   | <b>損益計算書</b><br><table border="1"> <tr> <td>〇〇費 50</td> <td>運営費交付金 収益 80</td> </tr> <tr> <td>利益 30</td> <td></td> </tr> </table> 達成度80%の場合<br>成果に対し費用を削減すれば利益が発生        | 〇〇費 50 | 運営費交付金 収益 80  | 利益 30 |  |
| 〇〇費 50   | 運営費交付金 収益 80  |   |        |               |       |  |
| 利益 30  |   |   |        |               |       |  |
| <b>費用進行基準</b><br><br>【対象財源】<br>運営費交付金（退職手当等の特定の支払いのために措置されたもの）、寄附金、受託研究費、施設整備費 | 業務のための費用発生をもって業務実施とみなし収益化します<br><br>退職手当等、特定の支払いのため交付される運営費交付金はこの基準により収益化されます。また、特定の用途のために寄附された寄附金等、各種外部資金にもこの基準が適用されます。費用と収益が同額となるため、この基準による収益化による利益は発生しません。 | <b>損益計算書</b><br><table border="1"> <tr> <td>〇〇費 50</td> <td>運営費交付金 収益 50</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> この基準では利益は発生しません                             | 〇〇費 50 | 運営費交付金 収益 50  |       |  |
| 〇〇費 50   | 運営費交付金 収益 50  |   |        |               |       |  |
|  |   |   |        |               |       |  |

### ●民間企業と同様に発生時に収益を認識するもの（【例】病院収入、その他自己収入等）

附属病院収益は、診療行為を行った際に収益を認識します。これは民間企業と同様の会計処理で、その他の自己収入等についても同様の処理となります。



## V. 資金の裏づけのない帳簿上の利益

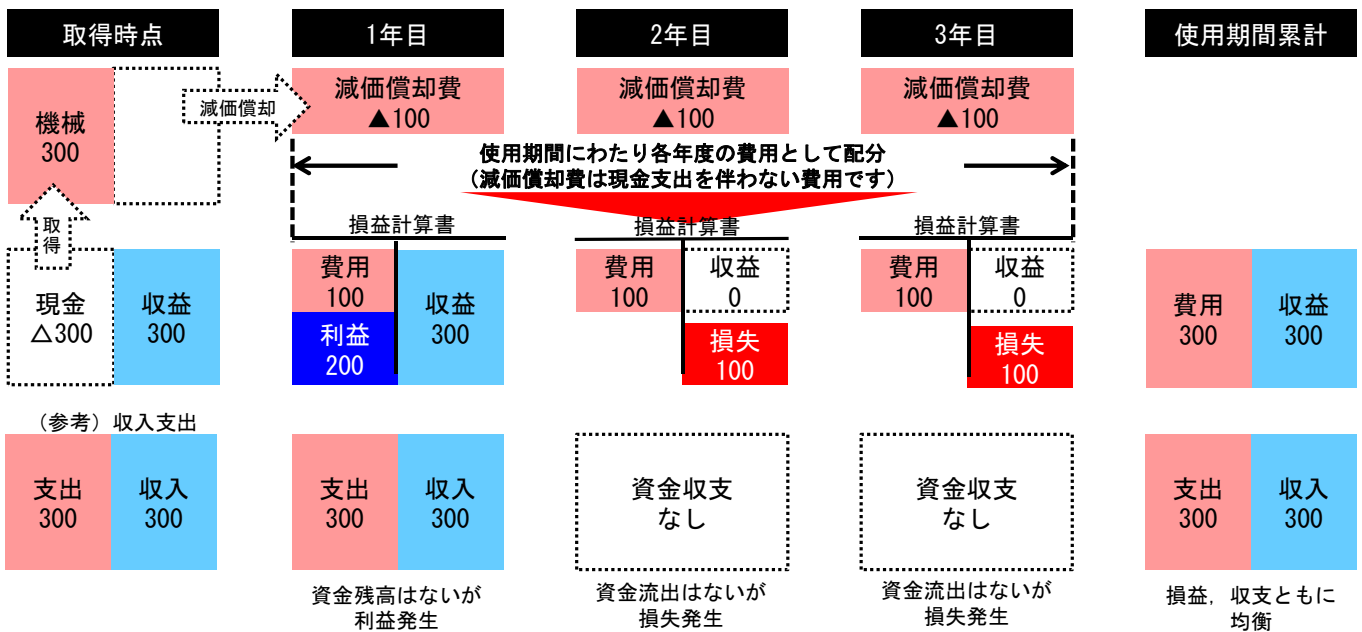
病院収入などは対価を伴う業務による収入であることから、民間企業と同様の会計処理となります。国立大学法人特有の損益均衡の会計処理は行われず、診療等の実施による収益はそのまま各年度の収益となります。そのため、病院収入等により資産を取得した場合には、支出年度と費用計上年度が異なるため、以下のように資金の裏づけのない帳簿上の利益や損失が発生します。

このように、国立大学法人の利益には、運営努力の結果生じる資金の裏づけのある利益と、会計処理のしくみ上発生する資金の裏づけのない帳簿上の利益があります。

### ●資産の取得に充てられた病院収入と減価償却費の差から生じる利益・損失

減価償却費に対応する収益を期間毎に計上するという処理は行いません。以下は、獲得した病院収益を資産取得に充当した場合のイメージです。初年度に利益が発生していますが、資産取得時に支出しているため現金の残余はなく、利益は資金の裏づけのない帳簿上の利益となります。また、2年目以降の損失も同様に資金の裏づけのない帳簿上の損失となります。

【例】300の病院収入で機械備品を購入、3年間使用した場合（他の収益は簡略化のため省略）



### ●借入金の償還期間と減価償却期間の差から生じる利益・損失

附属病院の借入金は、病院収入により返済するため、病院収益の一部が毎年借入金の返済に充てられます。

他方、建物等の固定資産を取得した場合、毎年減価償却費が発生することとなります。この場合、借入金の返済期間と借入金により建設した建物等の減価償却費の発生する期間が異なることから、損益の金額が期間によっても異なってきます。これらもまた、資金の裏づけのない帳簿上の数値となります。

【例】40億円を借入、病棟を建設した場合

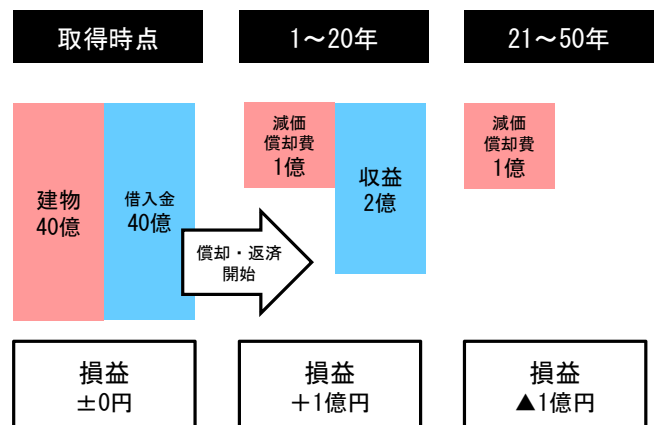
償却期間：20年 年2億円（均等返済）  
減価償却：40年 年1億円（毎年定額）

（左記のイメージ）

| 区分               | 1～20年 | 21～50年         | 累計   |
|------------------|-------|----------------|------|
| 返済に充てられる収益（病院収益） | 毎年2億円 | 毎年0円（20年で返済終了） | 40億円 |
| 費用（減価償却費）        | 毎年1億円 | 毎年1億円          | 40億円 |
| 損益               | 毎年1億円 | 毎年▲1億円         | ±0円  |

資金の裏づけのない利益

資金の裏づけのない損失

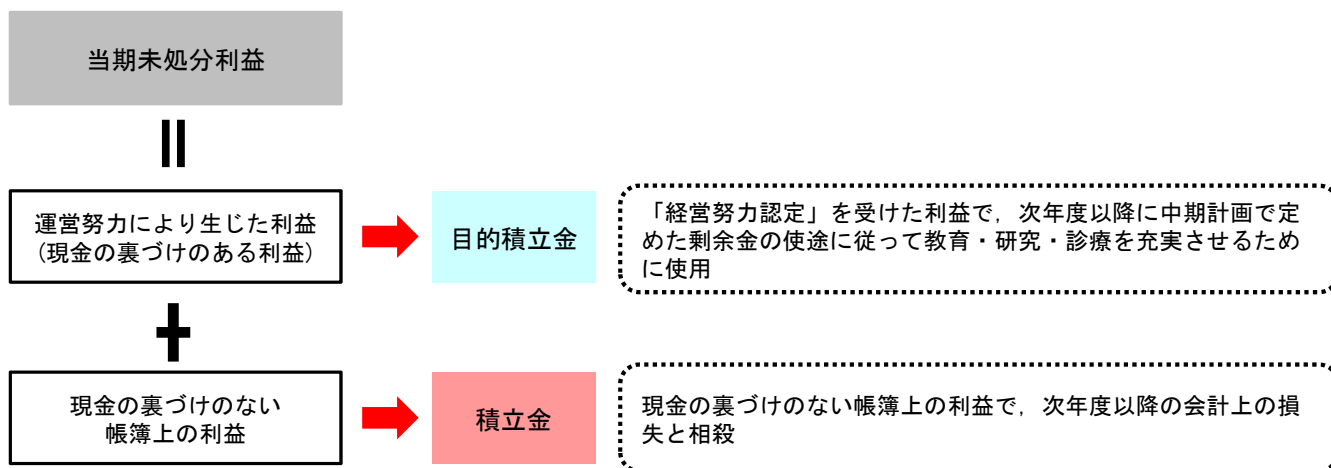


## VI. 国立大学法人の利益

国立大学法人は、民間企業と異なり株主のような営利目的の資本主が存在しないため、利益を配当等として外部に分配することはありません。また、国立大学法人の利益には、大別して「運営努力で発生した利益」と「現金の裏づけのない帳簿上の利益」の2つがあります。「運営努力で発生した利益」とは、業務の効率化による費用の削減や積極的な自己収入増加を図ったことにより発生した利益です。

この利益は、文部科学大臣に剰余金の使途の承認申請を行い承認を受けたうえで、目的積立金として次年度以降に繰り越し、中期計画に記載された使途に充てることが可能になっています。

その他の利益は積立金となり、損失が生じた場合には、この積立金を取崩すこととなります。



HIROSHIMA UNIVERSITY

2019年版／2018事業年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）  
 広島大学財務報告書 Financial Report 2019  
 発行／国立大学法人広島大学  
 〒739-8511  
 広島県東広島市鏡山 1-3-2  
 TEL : 082-424-4626  
 E-mail : kyoutu-keiri-zaimu@office.hiroshima-u.ac.jp